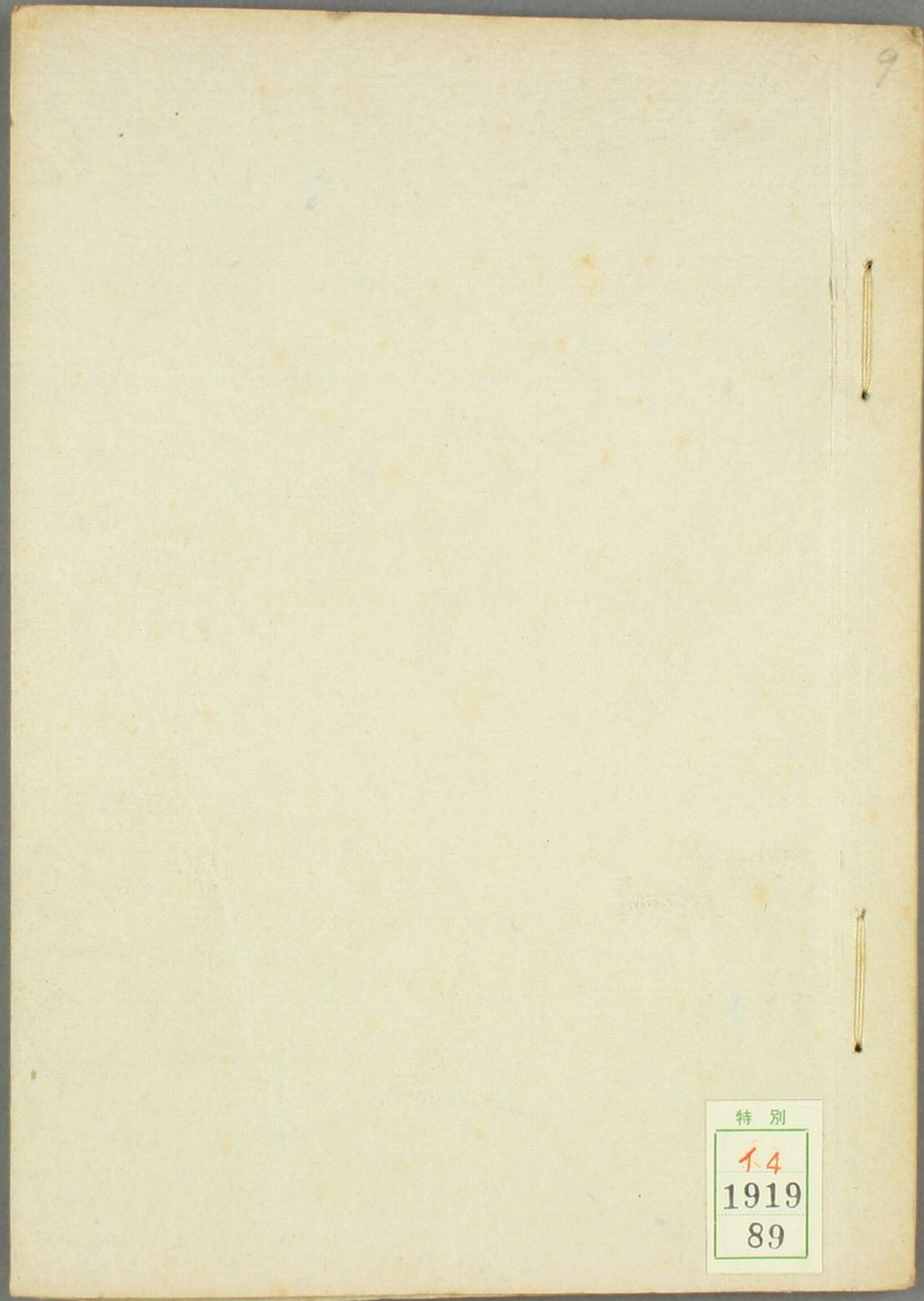
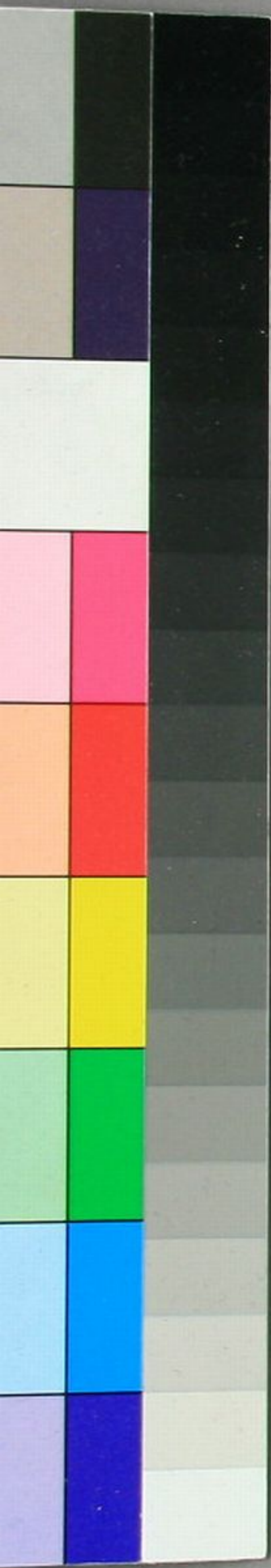
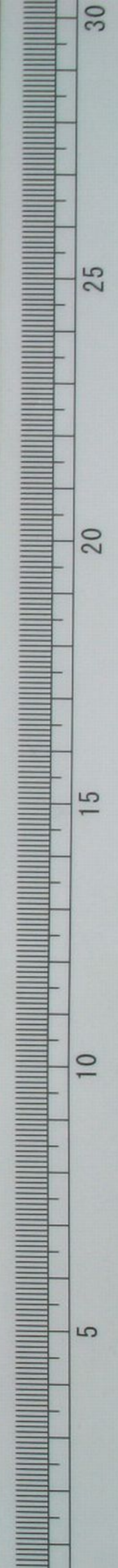




特 別
14
1919
89





熱海贅談

武

特
14
1919
9

15
1880
9

昭和十六年十一月一日寄
市島謙吉氏贈

○園治美術

西洋美術のメカニカルな交へる星美術とスポンタニ
 アスである。西洋美術と大いなる異なるところは、
 角觔とレスリングを以てして、西洋のレス
 リングは、角觔を以てメカニカルな交へる、我角觔の
 交へるも、西洋の角觔は、スポンタニ、アタイ
 う大いなる混入して、その力士の中心に、そのま
 り、その方の角觔を、姿勢を、そのま、そのま、
 差を、そのま、そのま、そのま、そのま、そのま、
 そのま、そのま、そのま、そのま、そのま、そのま、
 のめき、そのま、そのま、そのま、そのま、そのま、

西洋美術のメカニカルな交へる星美術とスポンタニ
 アスである。西洋美術と大いなる異なるところは、
 角觔とレスリングを以てして、西洋のレス
 リングは、角觔を以てメカニカルな交へる、我角觔の
 交へるも、西洋の角觔は、スポンタニ、アタイ
 う大いなる混入して、その力士の中心に、そのま
 り、その方の角觔を、姿勢を、そのま、そのま、
 差を、そのま、そのま、そのま、そのま、そのま、
 そのま、そのま、そのま、そのま、そのま、そのま、
 のめき、そのま、そのま、そのま、そのま、そのま、

は違ふ難をねえをなんといふ場なびす
大した事なしたふふ此の涉世の案といふものを
何しろ腹の痛くするにせよふ式も千金を
初めをうと一省の吟想のつらみ満ちる方か
う解をいふ、其れを清く物も事んとす
いふ事、縁の下ごとくといふをみてもよく
家許の家の年寄を催すの心して、せめて
其個の病いす、あゝ遣しな、お母の棋
ふ出るといふ事、あやうの人でけんがのけん
のり、其れをいふ下とていふのら甘あうの
いふ其れを上千因士の一はふるなりとす

いふ何のやういふ、なんをもまを毎日事
月の十のやう十のやうと、言の詞と極まる
る心然うも長くはあ、んてま、何ういふ
二のやう、いふやうといふのやう、其れを
清くといふ、いふ事、いふ事、いふ事、
其れをいふ、いふ事、いふ事、いふ事、
う、清く、其れをいふ、いふ事、いふ事、
下とて、其れをいふ、いふ事、いふ事、
いふ事、いふ事、いふ事、いふ事、

此の五平とて、人々河波のせんで、其れの時、いふ
すきい、其れをいふ、いふ事、いふ事、いふ事、

○娼妓

娼妓とては、その娼妓と云ふ一概に括りて
 之を以て歴史の、一確言して之をけの傍に
 おく、若し、娼妓を即ち白痴とて、才藝衆と
 優人上流の、主交しを中し、すもせぬもふ
 うつと位に決して、娼妓とて、喰ひ物を、
 のみ、何と云ふに、扱ふものや、その白痴子
 の、ドント、とも、誰とて、ソコテ、支那、も、上
 う、娼妓、が、あつた、えん、も、花、の、女、あ、ても、その、や、い
 る、の、文、を、な、し、て、よ、ひ、中、外、の、文、の、後、に

東棗原製

[illegible]

○伊古和の裸体画

○此の裸体面

東棗原製

[illegible]

同じく足利が氏と書き四の成候を研ぎて
さういふ思ふまゝ書きあへんと徳川家康を
あつて足利が氏をよめりといふは一概に逆賊
と抹殺したるもの風にあつて金にせよ人の
よめりといふいふをいふは書きあへり
係とわづらひるものか勝安房と書きあへり
且つ奥州にあるのじや、さ氏を一概に逆賊と
いふはさういふ事をいふと、確に順逆の
事煩悩しといふと思ふ、徳川家の苦勞を
金にする苦勞しといふものか書きあへり
徳川家の苦勞しといふものか書きあへり
徳川家の苦勞しといふものか書きあへり

これい、是は采園の武士道なる史といふ
うす出てる

延元元年、さ氏と書き義と書き、討つ
六座、自ら見て、徳川家の苦勞を
を、徳川家の苦勞を、徳川家の苦勞を
いふはさういふものか書きあへり
と、徳川家の苦勞を、徳川家の苦勞を
あつて、徳川家の苦勞を、徳川家の苦勞を
と、徳川家の苦勞を、徳川家の苦勞を
と、徳川家の苦勞を、徳川家の苦勞を

國のついで

隠るゝはるゝまゝは濁るゝ

とて死なうもむかひ

事切なけ美の能あるゝ文語あるゝしゝま
もてえさうし

明
正
德
五
年
一
月
元
旦
起
筆
書
城
梁
人

